

平成28年度事業計画

社会福祉法人 宇治福祉園

法人の理念と各事業の目的及び組織図

(社福)宇治福祉園 法人本部

理念:いのちを大切にする保育・福祉実践の探究

基本方針:子どもを中心にすべてのひとが日常のしあわせを創造すること

教育・保育事業

子どもの成育環境の創造と再生⇒自我・時間・空間・仲間
子育て家庭への支援 地域社会への貢献

児童発達支援事業

自主事業
ニーズの発見
とサービスの
提供

研究
人材の育成

関係機関との
連携

みんなのき三室戸・黄檗・木幡こども園
対話的子ども語りの保育
体験型学習・プロセス保育
手づくり保育・環境保育

Hana花保育園
駅前保育
夜間保育

放課後児童
健全育成事業

相談支援事業

学童保育

こどもーしょん

行政

木幡分園
さんりん舎

笠取自然の家

家庭的保育
はないろは

地域公益事業
京都地域福祉創
生事業

保育所訪問支援
事業

子育てサークルと
の協働

スタッフの自己実
現とキャリアパス
自己評価
第三者評価

団体

第2園庭Kappa
Run Do

退園後の親支援
ひなたぼっこ

資格の取得
技術の習得

大学
養成校

事業計画の構成

1. 基本方針
2. 重点事業
3. 実施計画

【基本理念】

「いのちを大切にすること」という法人理念に則り、一人ひとりの子ども、その保護者、家庭、地域の日常が同心円的に豊かになるよう保育方法及び成育環境の創造と社会貢献活動の推進を目指します。

【使命】

- I. 一人一人の子どもと大人の生き生きとした日常を支える。
- II. 一人一人の出会いに感謝し、すべての活動を対話的に創造し、育み合う。
- III. 子どもを真ん中に、すべてのひとが日常のしあわせを創造できるコミュニティ・社会づくりを推進する。

【役割】

1. 理想の保育者像を目指し、質の高い教育・保育の実践・創造・探究に努める。
2. 対話は福祉や教育の原点であることを理解するとともに、コミュニケーション・スキルを高め、さまざまな人たちとの豊かな人間関係を構築しつつ、ニーズの把握と丁寧な対応に努める。
3. 人的環境の一員として、技術の習得と表現力の向上について計画的に実践する。
4. 自然の恵みや身近な素材を活用し、より良い物的環境の吟味・構成・循環に努める。
5. 一人ひとりの子ども・大人が生き生きと集い、活動し、ふれあうコミュニティや地域風土を醸成する。

1. 基本方針

重点テーマ及び本法人の基盤強化

1. 経営基盤の強化

- * 幼保連携認定こども園への移行に伴う新規事務への対応と資金管理体制の強化
- * 保育所待機児童、放課後児童健全育成事業等への対応に備えた土地の取得・施設整備計画の立案と資金計画
- * 放課後デイの新規開設に向けての環境整備計画及び資金計画

2. 人材育成と職員処遇、労働環境の整備・改善

- * きょうと福祉人材認証制度の上位認証に向けた人材育成システムの確立
- * 職員給与等の改善
- * 事業及び各種業務の質と労働環境の両立に向けた業務の見直し及び組織の改編・体系化

3. 「いのちを大切にする」という法人理念と日本の生活文化を活かした教育・保育方法の確立・発展

- * 子どもの人権と個性、主体性を尊重する実践
- * 豊富な生活体験を土台とする実践
- * 豊かな情操・感性、個性的想像的創造力を愛し、表現の自由と科学する心を満喫する実践

4. 保育を科学的・多面的にサポート・推進するシステムの開発

- * こども一しょんシステムの充実・・・認定こども園への対応、業務省力と教育保育の質とを両立する様式の作成
- * 研究発表・・・平成29年度全国私立保育園連盟全国研究大会での実践発表に向けての実践研究
- * 人材ネットワークの拡張・充実・・・教育・保育の質の向上と子育て支援の充実

5. 子どもを真ん中にした地域公益活動・社会貢献活動

- * 京都地域福祉創生事業「こらぶれーしょん」の推進
- * 東日本大震災支援活動、災害時の自衛隊宇治駐屯地の協定
- * 行政、社協、大学、養成校、他法人との連携・協働

2. 重点事業①

【経営基盤の強化】

- * 幼保連携認定こども園への移行に伴う新規事務への対応と資金管理体制の強化

①契約に関する事務 ②他市町村からの利用受け入れによる連携事務 ③運営費から利用料＋給付費による運営、等々、これまで以上に事務量が増大し、精度が求められます。繁忙期を見定め、計画的かつ丁寧な点検を行い、業務に当たるよう努めます。

- * 保育所待機児童、放課後児童健全育成事業等への対応に備えた土地の取得・施設整備計画の立案と資金計画
- * 障害児放課後デイの新規開設に向けての環境整備計画及び資金計画

弊法人が運営する園への待機児童対策及び「学童保育」、障害児放課後デイ等の利用者ニーズに応えるための土地の取得、環境整備及び資金計画を立て、速やかに開設できるよう努めます。

3.重点事業②

【人材育成・業務の見直し及び組織の改編・体系化】

- * きょうと福祉人材認証制度の上位認証に向けた人材育成システムの確立
- * 職員給与等の改善
- * 事業及び各種業務の質と労働環境の両立に向けた業務の見直し及び組織の改編・体系化

平成27年度は、「三室戸・みんなのき」の両園にとって保育所としての最終年度でした。4月からは「幼保連携型認定こども園みんなのき三室戸・黄檗・木幡こども園」として、これまでの保育所運営で培った経験知・ノウハウを活かし、教育的視点を一層を加味しながら事業を推進していきます。

また、平成28年3月には、京都府「きょうと福祉人材育成認証制度」の認証を受けることになりました。今後は上位認証を目指して、さらに「やりがい・働きがい・生きがい」のある職場づくりに努めます。

- ①わかりやすいキャリアパスのしくみ ②人生設計に見通しの持てる給与体系
- ③地位向上に向けた優れた実践を支える研修体系
- ④業務省力と教育・保育の質の維持・向上を両立する記録様式・システムの構築と組織体制
- ⑤大学院、染色学校、幼稚園教諭免許所得に係る特例講座等への就学支援、奨学金制度の活用

平成27年度は経験2、3年の退職者が多く出ました。職員処遇の改善は最重要課題の一つです。政府の施策や幼保連携型認定こども園への移行により増額となる財源と人材を有効に活用し、誰もが生き生きと活躍できるよりよい労働環境の構築に努めます。

4.重点事業③

「いのちを大切にすること」という法人理念から 日常的な幸せを創造する・生活を楽しむ保育へ

【「いのちを大切にすること」という法人理念と日本の生活文化を活かした教育・保育方法の確立・発展】

* 一人一人のいのちを大切にすること⇔子どもの人権と個性、主体性を尊重する実践

子どもの側に行き、一人一人の子どもとの対話を通して、その背景と子どものすがたや活動をプロセスごと理解する実践に努めます。また、向善説、インクルーシヴな理念に基づく共生社会のプレ体験の場として、一人一人の子どもの人権・尊厳を尊重した保育活動を目指します。

* 自然のいのちを大切にすること⇔豊富な生活体験を土台とする実践

自然体験、畑づくり、藍染、草木染、食育⇒いのちの不思議、自然の偉大を体験的に学び、自然との対話、手間や愛情を継続的・持続的に注ぐ大切さを感謝と祝福のうちに学ぶ保育活動。さらに、故郷への愛着、食材への感謝、生活の知恵、大人への憧れや躍動する生、生活で得られる感動を生きるモチベーションや学びにするいのちの教育・保育の充実・発展を目指します。

* 乳幼児期のいのちを大切にすること⇔豊かな情操・感性、個性的想像的創造力を愛し、表現の自由と科学する心を満喫する実践

子どもがその「天才」をのびのびと発揮できるよう、子ども時代を満喫し、一人一人の「やる気」や「好奇心」、「探究心」等、子どもの願いを実現する保育活動を目指します。日常生活体験の充実から芽生えたひらめきや思いつきから、子どもにとっての意味性、物語性のある(子どもの生の共同者として)、詩情に満ちた日常芸術性あふれる保育活動、体験とプロセス重視のアクティブ・ラーニングを実践方法として確立していきます。

5.重点事業④

【保育を科学的・多面的にサポート・推進するシステムの開発】

「こども一しょんシステム」に認定こども園教育・保育要領の内容を反映させるとともに、平成27年に改訂された保育所第三者評価項目及び基準対応とし、さらに28年度中に改訂される「京都版保育所第三者評価項目・基準」と連動するよう改善します。また、教育・保育の指導計画や日誌等の様式も使う人のレベルに合わせてキャリアパス、OJTの要素を取り入れ開発します。

誰もが簡単に質の高い教育・保育実践が可能なツールとしての見直しを行います。

6.重点事業⑤

【子どもを真ん中にした地域公益活動・社会貢献活動】

28年度も「京都地域福祉創生事業 こらぶれーしょん、保育園へ遊びにおいDay」を京都府社協と連携・協働のもと実施します。

(1)「憩い場」

くつろぎ・交流スペース。栄養士による日替わり手づくりクッキーに湯茶を無料で提供。日ごろお茶をいただく暇も余裕のない親御さんの、親子共々の仲間づくりや、気軽な子育て相談の場として活用しています。小学生以上の子どもも自由に行き来しています。

(2)「遊び場」

当法人の保育の特色である、手づくり環境、つくる・描く遊び、運動・泥んこ等のダイナミックな遊び、乳児コーナー等を設け、赤ちゃんから大人まで自由に遊びを楽しんでいます。

(3)「学び場」

小学生以上の子どもが落ち着いて勉強がしたいとき、必要に応じて設定するスペース。今はまだ利用が少ないですが、学習支援や大人も利用できるシェア・オフィスのような「場」にしていきたいと考えています。

(4)「利用者・協力者がつくるプラスαの場」

特技や趣味、やってみたいこと等を持ち寄り創出する「場」。現在は月2回、利用者がインストラクター役を務める「Zumba(南米生まれのフィットネス)」と看護師によるベビー・マッサージを実施。その他、日曜大工、園芸、手芸、草木染、音楽等を行いました。世界づくり、仲間づくり、自分づくりの起点として、日常保育と相互的に展開しています